

代謝タンパク質：効率をあげるアミノ酸プロファイル

MPは第一胃以降に消化されるタンパク質の形態で、乳牛の健康維持や生産性にとって必要不可欠な必須アミノ酸を提供します。



推奨される給与量

給与量は変動する場合がありますが、1日1頭約0.68~0.907kgです。

- 湿式化学によるDCAD飼料の分析を入手し、塩化物、カリウム、ナトリウムと硫黄のレベルを決定するために水源をテストします。水源によって異なり、DCADレベルに影響する可能性があります。
- 分娩前の乳牛に最適なDCAD値は-8~-12meq/100g (乾物)です。

- 乳牛の分娩前飼料の主要な代謝タンパク質源としてBIO-CHLORを給与します。

DCAD 飼料の配合に関する詳細は、*Arm & Hammer Animal and Food Production* の代理店に、正と負のDCADバランスに関連する資料についてお問い合わせください。

私達#ScienceHeartedにご相談ください。

私達は好奇心旺盛な農場の子供から、栄養のイノベーター、微生物の開拓者、食品安全のゲームチェンジャーとなりました。お客様、お客様の家畜、そして世界の食品安全にフォーカスした製品を作るため、自然の力をアンロックする科学的研究を行っています。詳細は、栄養士、獣医師、または、ARM&HAMMERの代理店へお尋ねください。また、ウェブサイトAHfoodchain.comをご覧ください。



1 <https://www.dairyherd.com/article/high-cost-fresh-cow-disorders>

2 Robert Corbett. ARM & HAMMER Animal Nutrition, 2001. Data on file.

3 Meta-analysis of the effects of prepartum dietary cation-anion difference on performance and health of dairy cows Santos JEP, Lean IJ, Golder H, and Block E. 2019. *J Dairy Sci* 102:2134-2154.

4 Weich W, Block E, Litherland NB. Extended negative dietary cation-anion difference feeding does not negatively affect postpartum performance of multiparous dairy cows. *J Dairy Sci* 2013;96:5780-5792.

5 Hoover W. Difference in feed intake pre- and postpartum, urine pH prepartum, and difference in production parameters postpartum for cows fed a control diet vs. a BIO-CHLOR containing diet [DCAD -10 meq/100 g DM] for 21 days pre-partum. ADSA Abstract, 1998.

6 DeGroot MA, Block E, French PD. Effect of prepartum anionic supplementation on periparturient feed intake, health, and milk production. *J Dairy Sci* 2010;93:5268-5279.



移行期の健康を維持する



ScienceHearted

ARM & HAMMERはビジネスを推進する安全な飼料とフードソリューションをマイクロレベルで提供する事を大切にしています。私たちは#ScienceHearted、ローカルかつグローバルな家畜と食の生産チームです。

移行期の健康維持に大きなコストがかかっているかも しれません

泌乳開始の乳量の低さ、子宮炎の高い発症率、低い妊娠率は収益に悪影響を及ぼします。潜在的な移行期の健康問題が原因である可能性もあります。

移行期は泌乳の成功にとっても重要です。

各乳牛がそれぞれの生産能力を発揮できるように助けることができたなら？



健康の維持

病気の発生率を減らすことができたなら？



生産性を推進

一貫して泌乳開始の乳量高め、子宮炎の発生率を下げ、また妊娠率を高めることができたなら？



生産寿命を延ばす

各乳牛の産次数を1回ずつ増やすことができたなら？

BIO-CHLOR™だけが：

1つの一貫した処方方で代謝可能なタンパク質（MP）と負のDCADを提供します。

- ✓ 臨床型や潜在性の低カルシウム血症、子宮炎や四変を減らすため分娩前飼料の成功例を活用
- ✓ 臨床型や潜在性の問題の診断と治療に必要なリソースを削減

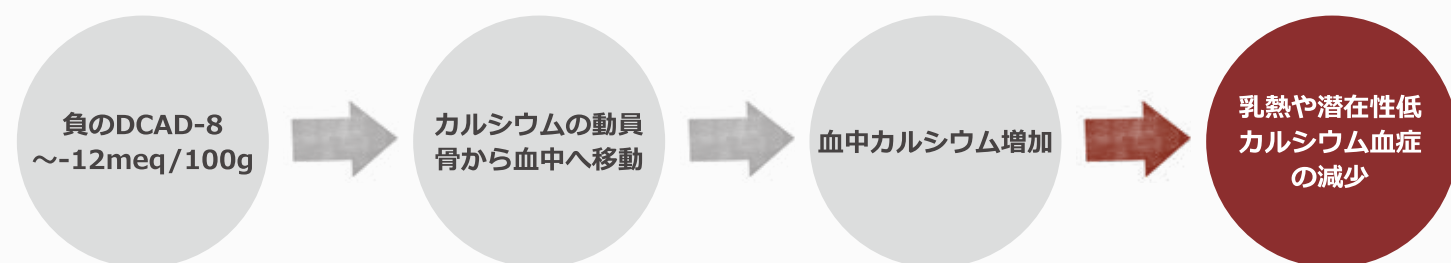
DCADに関してARM&HAMMER™ほど多くの研究発表をしている企業はありません。それは今も続いています。
ScienceHearted

DCADのバランス：証明されています。

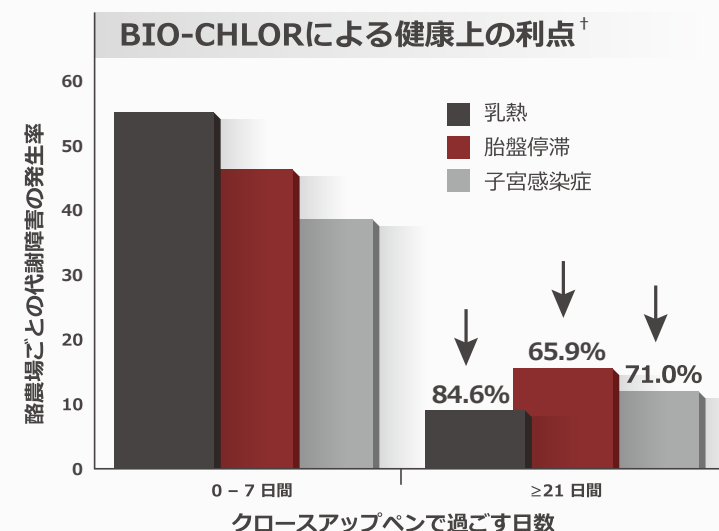
クローズアップ飼料は、次の泌乳期で最適なパフォーマンスを発揮するための準備を整えてくれます。移行期で証明された栄養ツールは飼料中のカチオンとアニオンの電位差（DCAD）のバランスです。



分娩前の負のDCADは乳熱に関連するリスクの減少を助けます



移行期の問題を診断する時間の削減



† 13,000頭の牛の観察に基づいて

13,000頭以上を観察した研究試験で、乳牛にBIO-CHLORを分娩前の少なくとも21日間給与すると：²

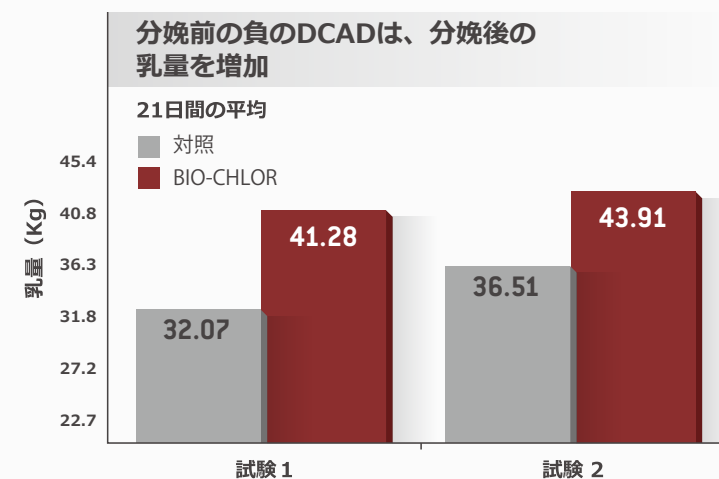
- 乳熱の発生 - 84.6%減少
- 胎盤停滞 - 65.9%減少
- 子宮感染症 - 71.0%減少

42の文献と134の処理からのメタ分析によると、分娩前のDCADを+20から-10meq/100g（乾物）へ下げた時、生産と疾病の発生率に変化が見られたことが示されました。³

分娩後乾物摂取量 (Kg/日)	+1
乳量 (Kg/日)	+1.70
FCM (Kg/日)	+1.10
乳熱 (発生率%)	-80%
胎盤停滞 (発生率%)	-47%
子宮炎 (発生率%)	-39%
第4胃変位 (発生率%)	-18%
総疾病/頭	-56%

泌乳のスタートアップをサポート

2つの異なる研究で、乳牛に分娩前の21日間BIO-CHLORを給与すると、対照区に比べて乳量の改善が見られました。^{5,6}



21-42日間

移動式ペンやグループ化戦略のために異なるクローズアップ飼料を給与することが難しい場合、分娩前の解決策はBIO-CHLORです。研究4からBIO-CHLORの給与の開始を分娩前42日間まで早めた場合と分娩前21日間に給与した場合とを比べると、悪影響なく似たような健康と生産への利点をもたらす事がわかります。